

研究タイトル:

老人福祉施設の立地に関する研究



氏名: 今岡 芳子 / IMAOKA Yoshiko E-mail: imaoka@t.kagawa-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 土木学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本地熱学会, 環境情報科学センター

キーワード: 環境計画、社会性評価、地域都市計画、地域福祉、地理情報システム

技術相談
提供可能技術: ・地理情報システム(GIS)に関する相談
(社会性評価や環境評価など調査、評価の分析と可視化など)
・中心市街地活性化など地域活性化に関する検討

研究内容:

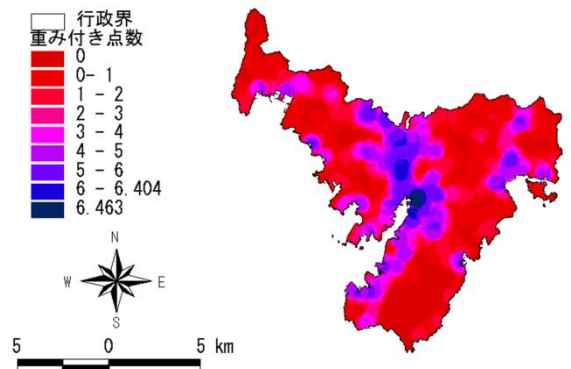
超高齢社会において、高齢者が地域社会において、安心して、充実した生活を送ることができる条件を整え、要支援者、要介護者を極力つくらないようにするには、予防重視の医療・福祉サービスだけでなく、快適な住みよい生活環境を整備することが重要となる。そこで、高齢者の使いやすさ、いわゆる利便性の面から、また、災害時における福祉施設の安全性について検討している。

これまでに行った研究では、施設入所者(以下、入所者と略記)が自らの意思で外出する意欲を持つ生活環境を、生活環境を評価するにあたり必要とされる「利便性」に着目し、入所者の視点から評価することで、入所者が施設の周辺環境に求めている生活環境を明らかにしていくことを目的とし検討を行った。さらに、この結果を基に、今後の老人福祉施設の立地候補地の選定を、GIS(地理情報システム)を用いて行った。

この研究の結果、長崎市を対象としたアンケート調査では、入所者は、施設内での生活が確保されているため、施設から外出する必要のない生活環境にありながらも、老人福祉施設の入所者が求めている生活環境は、医療施設、スーパーマーケット、公共交通機関など、在宅で生活していく上で必要最低限の施設と同様の施設が周囲にあり、それに加えてレクリエーションやクラブ活動といった余暇活動の可能な施設が求められていることが明らかになった。また、全体的に入所者の評価が従業者よりも高いことから、入所者が周辺環境に関心があり、施設周辺に各種施設を欲していることが示された。

この調査では、今後の建設という前提の下でアンケートを実施したことで、従業者に生活の面倒を見てもらっているという意識を持つ入所者の要望や希望が、アンケート調査結果に十分に反映されたと考えられる。また、立地選定では、アンケート結果より利便性について求められた心理的情報を定量化し、GISを用いることで地理的に、かつ広域的に評価が可能であり、入所者の意見を全面的に取り入れた選定が可能であることが示された。

この他にも高齢者に関わらず、福祉のまちづくりをキーワードに観光地のバリアフリー調査とそのマップ作成なども行っている。



定量化したアンケートの結果を可視化した一例

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル: **地熱発電所建設に際した
立地環境評価手法確立の試み**



氏名: 今岡 芳子 / IMAOKA Yoshiko E-mail: imaoka@t.kagawa-nct.ac.jp
職名: 助教 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 土木学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本地熱学会, 環境情報科学センター

キーワード: 環境計画, 社会性評価, 地域都市計画, 地域福祉, 地理情報システム

技術相談
提供可能技術: ・地理情報システム(GIS)に関する相談
(社会性評価や環境評価など調査、評価の分析と可視化など)
・中心市街地活性化など地域活性化に関する検討

研究内容:

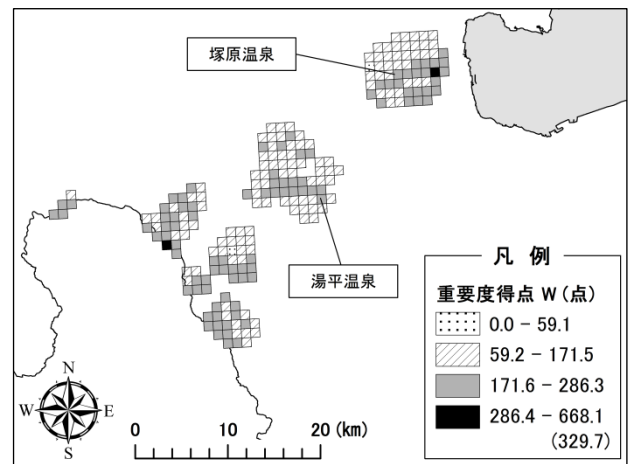
エネルギーの枯渇問題に対して再生可能エネルギーの導入を検討している日本において、地熱エネルギーは地熱資源量が世界第3位と利用価値の高いエネルギーであるものの、事業用発電所に関しては2000年以降の新規地熱発電所の運開はなされていないのが現状である。これは開発コストと自然公園法等の法規制、温泉事業者や地域住民との共生といった、地熱発電所を建設するにあたっての課題が原因となっているためである。しかしながら、2012年7月1日には再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始され、今後、地熱エネルギーの利用が期待される。

このことから、自然公園を始め、多くの立地環境条件が建設時に検討が必要となる地熱発電において、今後の開発には、既存地熱発電所建設の際に立地場所の選定に携わった事業者の評価経験が重要になるとともに、今後増えるであろう新規事業者に対して、この評価経験を可視化することが可能となれば、建設検討時の一指標としての利用価値はあると考えられる。また、建設には地元住民の地熱発電への理解も重要となってくる。

そこで現在、既設の地熱発電所建設事業を対象にアンケートによる立地環境の評価をお願いし、地熱発電所の評価基準をGIS上に取り込み、既存の地理情報を利用した地熱発電所建設時における立地環境評価の確立と実用化の検討及び、地熱有望地域および既設発電所の地元住民の地熱エネルギーに対するアンケート調査などを始めている。

立地環境評価に関しては、既存の地熱発電所事業者が考える立地環境評価項目の検討の必要性を重要度得点として算出した結果、最重要項目は特別保護地区(自然公園)であり、自然公園地域の存在が立地選定に大きく影響を及ぼすことがわかった。また、地元住民の地熱開発に対する考え方や温泉地・噴気のあるように、建設計画時の検討に加え、地熱発電所建設後も地元住民や温泉事業との共生を図ることが重要であることが示唆された。この結果を基に大分県での立地選定を行ったところ、図のように建設時の検討の重要度から今後の建設可能性を見ることができた。

また、地熱有望地域におけるアンケート調査では、地熱発電の印象は良い印象を持っている回答者が多い傾向にあるものの、悪い印象として温泉の枯渇を選択した住民も多く、温泉事業者などに直接の影響を与えるかもしれないという不安を持っていることが確認できた。しかしながら、バイアスを考慮した社会的価値を推定した結果、仮想したシナリオの地熱発電所建設事業は、社会的価値があると評価でき、全体的に地熱発電に対して良い印象や期待などがあることがわかった。



立地選定結果

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	